

暖房器具を正しく使おう

気温の低い日が続き、暖房器が活躍する季節です。暖房器具を安全に使用するためには、点検が重要です。点検を怠ると、ほこりが原因で火災を起こす、または異常燃焼による一酸化炭素中毒を引き起こす可能性があります。

●石油ストーブ

給油タンクの給油口にさび・変形・破損などがいないか確認しましょう。また、本体などから油漏れやにじみがないか確認し、よく絞った柔らかい布で本体などに付着したほこりなどを清掃しましょう。

また春になり、しまう前には灯油を使い切ったか確認し、本体に古い灯油が残っている場合は、抜き取りましょう。

●ファンヒーター

本体が冷えていること、電源プラグがコンセントに差し込まれていないことを確認してから、本体、温風吹出口などを掃除します。ほこりなどは掃除機で吸い取り、油や汚れなどは乾いた柔らかい布でふき取ります。石油ファンヒーターの場合は、石油ストーブと同様のお手入れをし、ガスファンヒーターの場合は、ガスホースにひび割れなどがいないかをチェックしましょう。

その他、電気ストーブや電気こたつなどもほこりはよく取り除いてから使用しましょう。



火災事例から学ぶ 暖房器具火災を防ぐポイント

事例 1：ストーブに布団が接触して出火した火災

電気ストーブを点けたまま寝込んでしまい、掛けていた布団がストーブに接触し出火した

- ・寝る時、外出する時にはスイッチ切る習慣を付けましょう。
- ・長期間使用しない時にはコンセントを抜きましょう。

事例 2：使用中にストーブに給油したことから出火した火災

石油ストーブを消火しないままカートリッジタンクに補給し、口金を完全に閉めないでストーブにセットしたため、口金が外れ漏れた灯油に着火し出火した。

- ・給油する時は、必ず消火し、火が消えたのを確認してから行いましょう。
- ・カートリッジタンクの口金は確実に閉めましょう。

事例 3：ストーブに衣類が接触して出火した火災

衣類を乾かそうと、ストーブ上に洗濯物を吊るしておいたところストーブに落下し出火した。

- ・ストーブの上で洗濯物を乾かすと、落下するおそれがあるので絶対やめましょう。
- ・カーテンや衣類・布団などのそばで使用すると、暖房器具に接触するおそれがあります。



※いずれの暖房器具も、構造が違いますので取扱説明書をよく読んでお手入れをしてください。使用中異常が発生したら販売店やメーカーに相談しましょう。

また、暖房器具を使用する前には必ず点検をし、古くなった灯油は使用しないようにしてください。

一酸化炭素中毒事故に注意しましょう

石油ストーブ、ガスストーブ、ファンヒーターなどの暖房器具は、室内の空気（酸素）を使って燃焼し、排気ガスを室内に出す仕組みになっています。換気をしないでこれらの暖房器具を使用し続けると、室内空気が汚染されます。また、そればかりでなく、室内の酸素濃度が低下し、不完全燃焼が進み、一酸化炭素が急激に増加することで、中毒を引き起こします。

室内で、暖房器具を使用する時には、定期的に空気を入れ換えることが必要です。そのためには、1時間に1回以上、5分程度窓を開けるか、時間を決めて換気扇を回すなど、こまめな換気を心がけましょう。

